

2025年2月25日

株式会社みずほ銀行

スターゼン株式会社



スターゼン株式会社へのみずほ銀行による 「Mizuho Eco Finance」の実行について

～日本銀行の「気候変動対応を支援するための資金供給オペレーション」の枠組みを活用～

スターゼン株式会社（代表取締役：横田 和彦、以下「スターゼン」）と株式会社みずほ銀行（頭取：加藤 勝彦、以下「みずほ銀行」）は、両者間で「Mizuho Eco Finance」（※1、以下「本商品」）の融資契約を締結し、本日実行しました。

本件は、日本銀行の「気候変動対応を支援するための資金供給オペレーション（気候変動対応オペ）」（※2）の枠組みにおいて、みずほ銀行が気候変動対応に資すると判断する融資案件です。

本商品は、脱炭素社会への移行に向けて、お客さまとともに取り組みを促進していくことを目的に、グローバルに信頼性の高い環境認定や評価等を組み入れた、みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社が開発した環境評価モデルを用いて、お客さまの取り組みや指数をスコアリングし、一定のスコア以上を満たしたお客さまに対し融資を行う環境評価融資商品です。

なお、評価手法を含む本商品のフレームワークについては、株式会社日本格付研究所（JCR）から環境省の「インパクトファイナンスの基本的考え方」に整合する旨の意見書を取得しています（※3）。

〈みずほ〉は、スターゼンがサステナビリティへの取り組みを着実に推進してきた中で、2021年12月にTCFDに賛同していること、2024年6月に「1.5℃目標」のSBT認定を取得していること、温室効果ガスに関する環境長期ビジョンを策定し、2030年度を目標年とする総量削減目標を設定していることなど、評価モデルに使用している指標において高い水準で満たしていることを評価しています。

スターゼンは、2024年4月に33年ぶりに理念体系を刷新し、「食の感動体験を創造することで世界中の人々と食をつなぎ続ける」という経営理念を掲げるとともに、中期経営計画において「サステナビリティ経営と経営基盤強化」を掲げ（※4）、気候変動対策は優先的に取り組むべき課題と捉えています。当該課題に対応すべく、例えば、牛のゲップによるメタンガス排

ともに挑む。ともに実る。



出削減に向け国内外において飼料添加物によるトライアルを開始するなど、持続可能な社会の実現に向け、食を通じて社会課題の解決に取り組んでまいります。

〈みずほ〉は、今回のスターゼンとの取り組みのように、お客さまとの積極的な対話（エンゲージメント）を通じて課題やニーズを深く理解し、お客さまのSDGs・ESGへの取り組みやイノベーションをサポートするため、多様なソリューションの提供に積極的に取り組んでいます。また、気候変動対応や脱炭素社会への移行など、持続可能な社会の実現に向けた取り組み（サステナビリティアクション）を強化しています。環境・社会課題解決に向けた資金の流れを創出するサステナブルファイナンスや金融を超える知見・機能を活用したソリューション提供を通じ、SX（サステナビリティ・トランスフォーメーション）に向けて、お客さまとともに挑戦していきます。

＜案件の概要＞

融 資 先：スターゼン
貸 付 人：みずほ銀行
契 約 金 額：20億円
契 約 締 結 日：2025年2月20日
実 行 日：2025年2月25日
期 間：5 年

※1：「Mizuho Eco Finance」

2019年6月28日付ニュースリリース「『Mizuho Eco Finance』の取扱開始について」

https://www.mizuhobank.co.jp/release/pdf/20190628release_jp.pdf

※2：気候変動対応を支援するための資金供給オペレーション（気候変動対応オペ）

本枠組は民間における気候変動対応を支援するため、日本銀行が資金を貸付ける資金供給オペレーションです。

みずほ銀行は本枠組の対象先に選定されており、温室効果ガス排出量の削減に資するお客様の取り組みを、ファイナンスを通じ支援しております。詳細については以下リンクをご参照ください。

https://www.mizuhobank.co.jp/release/pdf/20211201release_jp.pdf

※3：株式会社日本格付研究所のウェブサイト

<https://www.jcr.co.jp/greenfinance/>

※4：スターゼン株式会社のウェブサイト

<https://www.starzen.co.jp/>

以 上

ともに挑む。ともに実る。

MIZUHO